学 校 だ よ り　9月号

文京区立第一中学校　令和５年９月４日(月)

実り（みのり）

校長　田島　佳子

食欲の秋という言葉をよく耳にします。これは、秋に旬を迎える食材が多く、食べ物がおいしい季節ということからきています。

夏がまだ少しねばっていますが、少しずつ秋の気配が感じられるようになりました。「朝、夕はだいぶ過ごしやすくなった。」という会話が聞こえるようになると、「あぁ、もう、夏も終わるなぁ」と思います。夏の終わりから秋の始まりにかけて、ぶどうが実りを迎えます。ぶどう狩りの終わりの頃には栗拾いです。毎年、所沢の農園に行って、ぶどうや栗をいただいてきます。コロナが流行る前から行っていました。その頃は、「知る人ぞ知る」といった地元の人だけの秘密の場所で、そんなに知れ渡っていませんでした。ところがコロナで屋内より外で子供たちが楽しめるところということで、急に人が増えました。そこの栗は２種類あって、私たちがスーパーなどでよく見かける栗とそれより一回り大きくて黒々していて、ぷっくりとした利平栗というのがあります。この利平栗がとても美味しいのです。一つの毬（いが）に普通は栗が３つ入っていますが、この栗は、１つか２つです。１粒は大きいのですが、収穫できる量が少ないのです。いつも普通の栗と利平栗を拾ってきます。毬の中で栗の実が十分な大きさになると、パキっと小さな音を立てて毬が割れて地面に落ちます。パカッと口が開いた毬を運動靴の底で左右に開いて、トングのようなもので中の栗を出します。枝から地面に落ちるときに毬から飛び出て、そこら辺に転がっている栗も拾います。とにかく、栗拾いは楽しいです。しかし、この栗を食べるとなると結構大変なのです。まず、皮が堅い。剥くのが大変です。いつも栗ご飯と渋皮煮にするのですが、手間暇がかかります。皮に包丁で傷をつけて、茹でてから剥きます。鬼皮だけを剥いたものは、渋皮煮に、渋皮まで剥いたものは栗ご飯にします。栗の下準備は大変ですが、堅い毬で守られぷっくりとした栗を見ると、「実り」を実感します。

長野県の小布施という小さな町は栗で有名です。ここの栗は、和菓子に使われます。気候と水と土壌で大きくて甘みの強い栗が実ります。いくつかの種類がありますが、総称して「小布施栗（おぶせくり）」と呼ばれます。美味しい栗のお料理と栗の和菓子を出すお店がいくつかあり、秋はとても賑わいます。

魚やきのこなども秋に旬を迎えるものが多く、夏の暑さで落ちた食欲も戻ってきます。私たちは、動物や植物の命をいただいて生きています。植物は自分たちの子孫を残すために実をつけます。その実りをいただくわけですから、感謝の気持ちをもって、手間がかかっても美味しく料理していただきたいと思います。

２学期は、夏が終わり秋から冬へと季節が変わってきます。一番長い学期です。生活、学習、人との接し方など生きていく力を高めましょう。

実力とは本来持っている力。
実らせましょう。あなたの力を。

夏休みに入ってすぐの土曜日、７月２２日に２回目となる一中祭が開催されました。昨年の１２２２名を上回る１６００名の来場者となりました。今年は近隣の各町会が縁日を開きました。ヨーヨー釣りや駄菓子くじ引き、ゲームなど子供たちが楽しめるものがあり、早くからお目当ての縁日ブースに並ぶ姿が見られました。本校の中学生のボランティア、地域のボランティア、PTA やその OB、そして近隣の大学生など多くのボランティアの力で支えられました。実行委員会を中心に、何度も検討や確認が行われていました。縁日ブースや盆踊り、吹奏楽や太鼓の発表を楽しむ姿がありました。このお祭りがこれからも地域の誇りとなってくれることを願っています。

一中祭　７月２２日(土)

８月２２日～２５日に文京区総合体育大会がありました。結果を HP にアップしますのでご覧ください。

8/24 全日本小中学生ダンスコンクール
東日本大会　中学生部門　銅賞

8/8 第 63 回
東京都中学校吹奏楽コンクール　銀賞

９月１日防災引き取り訓練